

2019年度 第13回 国家資格キャリアコンサルタント試験

(JCDA) 実技試験(論述) 解答例(中里)

※今回の見立ては、そう難しくはないですね。相談者自らが主訴の中で問題点を提示しています。「ワークライフバランス」が大きなキーワードになります。そのほか、「育休明け」「時短勤務」もキーワードですが、その背景には、相談者自身のまじめな性格、負けず嫌い、頑張り屋等がもう一つの問題点として潜んでいることに気づき、忘れずに述べていけばいいのです。

[問い1] 事例ⅠとⅡはキャリアコンサルタントの対応の違いにより展開が変わっている。事例ⅠとⅡの違いを下記の5つの語句を使用して解答欄に記述せよ。(自問自答 説得 経験 判断基準 好意的関心) (15点)

事例Ⅰでは、相談者が時短を使い働くことで、周りに仕事の負担を負わせているのではないかと葛藤に自問自答する「心苦しさ」に CCt は寄り添うことなく、苦しさの原因を、「仕事が合わない」「雇用形態」といった判断基準を例示し、最終的には「慣れること」を説得する一方的な応答であり、問題解決に至っていない。一方事例Ⅱでは、「心苦しい」という感情に焦点を当て、好意的関心に基づいた具体的な相談者の経験を尋ねることで、CLの感情の背景にある「頼むことが自己の能力の低さにつながる悔しさ」と感じる本音の感情への気づきを促し、問題解決に向かう展開となっている。(6行)

[問い2] 事例Ⅰの CCt4 と事例Ⅱの CCt3、CCt7 の下線部のキャリアコンサルタントの応答が、相応しいか、相応しくないかを考え、「相応しい」あるいは「相応しくない」のいずれかに○をつけ、その理由も解答欄に記述せよ。(15点)

事例Ⅰ CCt4 相応しくない

CCt は本音と建前の、建前としての制度にのみ焦点を当て、CLの本音の感情の部分を無視した応答であるため、CL5で本音の「苦しい」という感情を吐き出すことで CCt に抵抗を示している。

事例Ⅱ CCt3 相応しい

「心苦しい」という感情に焦点を当て、その具体的な出来事を尋ねることで、心苦しいという感情の背景にある深い想いを引き出すきっかけとなる応答である。

事例Ⅱ CCt7 相応しい

CL7のエピソードの内容を要約し、「頼むこと」と「自分は能力が低い」ことを結び付けて明確に伝え返すことで、CL8で、「そうですね」と相談者自身に気づきをもたらす応答である。

[問い3] 事例Ⅰ・Ⅱ 共通部分と事例Ⅱにおいて、キャリアコンサルタントとしてあなたの考える相談者の問題と思われる点を解答欄に記述せよ。(10点)

時短で働くことで周りに仕事ををお願いするのは心苦しいという相容れない感情に巻き込まれていて、ワークライフバランスの観点で仕事を捉えることができず、中・長期的ライフキャリアプランが描けていない。また、自身の能力の限界を知ろうとせず、他者からのサポートが受け入れられないなど、自己理解不足である。

[問い4] 事例Ⅱのやり取りについて、あなたなら今後どのようなやり取りを面談で展開するか、具体的に解答欄に記述せよ。(10点)

育児をしながら仕事にも貢献しようと努力している姿勢を支持し、「心苦しい」という感情に寄り添う。その上で、新しい部署での仕事分担や役割について、上司に確認してみることを勧める。また、今の部署でのメンバーに自身の現状や時短内でできる仕事量について相談するなど、自己開示をしていくことでできるだけ早く信頼関係を築いていくことを促す。また、部署内で時短を使い子育てをしながら働いた経験のある先輩がいれば、働き方について相談してみるよう勧める。さらに、子どもの成長に合わせた中・長期的なライフキャリアプランを作成することで今後の自身の働き方について、前向きになれるよう支援していく。